

川でむすぶ



<行事案内> 「川ばた会議」 平成30年 2月24日（土）

<事業報告>

- ①第4回夏井川かわくんだり
- ②全国河川愛護団体交流会山口大会に参加して
- ③新川ひょうたん島の整備
- ④小玉川溪谷探勝ウォーキングに参加して
- ⑤福島銀行ふるさと自然環境基金助成金贈呈式

<寄稿文>

- ①ふるさと ー水の惑星地球ー
- ②夏井川の思い出(5) 親しみやすい夏井川に

新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆さまのご協力により諸事業を成功することができました。今年も健康第一に川づくりを進めていきましょう！！

【行事案内】 夏井川流域の会主催事業

“ **川ばた 会議** ” ～ 「**川での安全対策講習**」

子供たちに川に親しんで欲しい。川には、多様な生きものの世界があります。でも、重大な事故にあったら大変。そんな心配から、つい子供たちを水辺から遠ざけてしまいがちです。確かに、安全は大事です。どんなことに注意したら、子供の安全を確保し安心して川で遊ばせることができるのか、そんな疑問に答えるべく、今回リスクマネジメントのプロRAC（川に学ぶ体験活動協議会 River Activities Council の略称）をお招きし、安全管理に関する講習会を企画しました。

- 日 時 : 平成30年2月24日（土） 午前9～12時
- 場 所 : いわき市文化センター
- 内 容 : ①「リスクマネジメント講習会」講師：塚原俊也氏（RAC トレーナー）
②ワークショップ「川でこんなことをしたい」をテーマに自由に意見交換
- 参加料 : 無料
- 申込方法 : 夏井川流域の会のスタッフまで「氏名、連絡先」をお知らせ下さい。

【寄稿文①】

ふるさと ー 水の惑星地球 ー

永井 精

みなさん「明けましておめでとうございます！」本年も皆様にとりまして幸多きお年でありますことを心よりお祈り申し上げます！どうぞご家族お揃いで心身ともにお健やかに過ごして下さいますようお願い申し上げます！

最近、TVの自然紹介番組や科学番組で、四国の四万十川や仁淀川、琵琶湖の水辺の素朴な生活など、「水辺と人間の懐かしくも深い関わり」をテーマにした心和む映像が時々TV画面に流れます。

世界においては18世紀の産業革命以降、日本においては特に第二次大戦後の経済成長期以降、大気や身近な水辺などが極端に汚染され、炭酸ガスの大量排出による地球環境の温暖化も加わり、私たち人類ばかりでなく地球上の生態系を破滅させるような「汚染」が続いています。日本においては童謡や唱歌、或いは万葉以来の和歌や俳句に謳われた心身共に和み親しめる身近な自然・住環境が破壊され、或いは消滅の危機に曝されています。

そんな危機感の中私たちこの会の仲間は、「子どもたちの笑顔が見える夏井川」をロゴに、夏井川水系河川を中心にその環境保全活動に努めて参りました。この間、橋本会長の性格もあり、無理をせず、地道に継続を！との活動スタイルで発足以来ほぼ20年を経過いたしました。水系内河川の水質調査、小学生を中心とする子どもたちの環境学習への手伝い、河川を真ん中に置いた各種の親水、自然愛護・観察イベントの開催、などを主にして背伸びせず地道に活動を続けて参りました。その間、賛同一般市民の方々、他の近親目的活動団体、関連事業者、行政関係などからも多大なご支援・ご協力をも受けて参りました。この後は今までに集めたデータや経験を流域近隣にお住いの人々と共有出来るような「共同作業」にも軸足を向けて行ければ・・・、流域の保全活動をご一緒に出来れば・・・とも考えております。

しかし、会の発足以来二十年を過ぎてメンバーの高齢化も進行しております。上手に世代交代が出来れば・・・、念願事項です。そういう私自身が体調を崩し、ここ2～3年はまともに活動しておりません。会の事務局担当の筈が名目ばかりで、橋本会長をはじめ世話人の皆様に迷惑の掛けっ放しです。新年号の会報なのに不躰千万な言い訳をお許し下さい！

ともあれ新年を迎え、新たな気持ちでまた確実に一步を踏み出したく存じます。「水の惑星地球」「豊かな自然環境のふるさと」を求めている若人よ集まれ！わが仲間に加われ！

【報告①】

第4回夏井川かわくだり

田中博文

平成29年9月10日（日）いわき市平鎌田の夏井川左岸親水公園にて「第4回夏井川かわくだり」を開催しました。

30名ほどの参加となり、当日の河川水量はくるぶしより少し上の水位と相当少な目でしたが、カヌーとゴムボートで分乗し、鎌田から新川合流点まで1.8kmを無事に下ることができました。ゴール地点（ボート引上げ場）には泥が堆積しており、参加者の足が汚れてしまうことが難点で、次回の検討課題です。

合間には笹舟競争、水生生物採捕、石重さ当て、きき水、アクアボールを行ないました。意外に笹舟づくりが子供たちに好評で、次回までに自然のものを利用した別の遊びも考えたいと思います。当会の重鎮「晴れ神様」の参加のおかげで快晴の心地よい日差しに恵まれ、子供たちが直接川との触れ合いを楽しむことができ、大成功だったと思います。

参加して下さった方々、準備・運営に携わって下さった方々、有難うございました。また来年第5回として開催します。



開始前の川流れ体験



まずは練習



もうすぐゴール



笹舟競争



モクズガニとゴリ？



石重さ当て・きき水



アクアボール



集合写真



最後にゴミ拾い

【報告②】

全国河川愛護団体交流会山口大会に参加して 橋本孝一

平成29年11月11日(土)～12日(日)全国河川愛護団体交流会山口大会に参加しました(福島組は13名参加)。この全国交流集会は、平成13年の山口県大会から始まり、今年で17回目です。年一回の懐かしい方々とお会いできる貴重な場です。

◆羽田からANAで、萩・岩見空港へ。交流会は、山口県岩国市錦町で開催されました。白井啓二大会会長の挨拶、国歌斉唱の後、来賓の方々の挨拶・紹介があり厳かな雰囲気の中、交流会が進められました。基調講演では、「錦帯橋を世界文化遺産登録へむけて」の話(林孝造氏)、「オオサンショウウオ」の調査報告(村田満氏)がなされた後、各地からの事例発表が8件ほどありました。福島県からは、当会の田中博文さんが「夏井川川下り」として発表、また、同じく福島県から「ウチダザリガニの調査と駆除活動」と題して大越則恵さん(「みなもん自然環境塾」)が発表しました。

第二部の懇親会では、地元有志による歌や踊りの披露も交え、大いに盛り上がり、和やかな内に交流を深めることができました。

◆2日目。朝8時、ホテルを出発し、錦川鉄道「とことこトレイン」に乗車、車中、“きららトンネル”視察。「光る石」を使って小学生や大学生等の作品を照らし出す趣向に度肝を抜かれた思い。錦町駅で下車。→オオサンショウウオの緊急保護施設見学、1mを超えるものもいる。→建設途中の平瀬ダムを見学。→錦川鉄道錦川清流線にて岩国駅まで乗車。車内は、カウンター形式になっていて、互いに会話が楽しめるよう工夫されており、車窓を楽しみながらの旅を楽しむ。→錦帯橋を渡り、対岸の「しろへびの館」や岩国城ロープウェイに乗り、高台から岩国市内の眺望を楽しむ。村岡山口県知事も駆けつけてくれて、一行と記念写真。

→バスにて、防府市のホテル到着。夜の懇親会には、山崎隆弘さん始め防府の懐かしいメンバーと旧交を暖め直した一時でした。これで、今回の交流会の行事は、一段落。

◆3日目。折角の機会ということで、山崎隆弘さんが用意して下さった車で、福島から来た8名を佐賀県まで案内して頂きました。下関から関門海峡を挟んで間近に九州を見た時、地図で想像していた以上に近く感じられ、同時に流れが速く複雑な海流に地元の人たちの生活との係わりに思いを馳せました。高速道路で、一路、佐賀市を流れる嘉瀬川の「石井樋」(“象の鼻”など、上手く堰を配置し、流れを制御して、農業用水を確保すると同時に治水の役割も担った施設)の見学。→佐賀神社近傍の施設見学(カップ公園等)→佐賀城本丸歴史館。→吉野ヶ里遺跡公園→朝倉町三連水車(先の水害でかなりダメージを)。この日の日程を終え、福岡市内のホテルへ。

◆4日目(11月14日)。早朝、ホテル近くを流れる那珂川と博多川に挟まれた清流公園、福岡天神を散策。→大宰府天満宮視察。→福岡空港より羽田空港へ、帰路についた。

◆今回の交流会は、主催者側の配慮もあり、とても充実した大会でした。また、2日目の懇親会以降は、防府の山崎隆弘さんには、大変お世話になりました。次年度は、島根県益田市での交流会になりそうです。今回参加できなかった方、来年一緒に参加しませんか。



講演会開会式



1日目懇親会后



錦川鉄道貸切電車



錦帯橋



しろへびの館 (村岡知事も)



佐賀朝倉被害跡 (柱に傷跡)

【報告③】

新川ひょうたん島の整備

佐藤 忠

夏井川流域住民による川づくり連絡会による毎月恒例の夏井川清掃活動では、県・市職員の方々の支援を受けながら実施しています。春・夏場は、夏井川河口親水公園の草刈整備をしています。

冬季は、アリオス前の新川ひょうたん島の整備をしています。ちょっとこれまでの主な動きを振り返ってみたいと思います。

★平成27年11、12月は、ひょうたん島が小山のようになっていて、堆積した土砂の撤去作業をしました。大変な労力に汗を流したことが思い出になっています。

★平成28年冬季は、島周辺の整備に当たりました。流れの主流は、右岸寄り、アリオス寄りの左岸は、流れが停滞し、淀んだ状態でした。そこで、ひょうたん島の上流側に杭を打ち、流れが左岸にも及ぶように流れを誘導すべく左岸側に溜まっていた土砂を撤去する作業をしました。その結果、その後は、左岸側にも清流が戻りました。様々な野鳥が生息し、鮭が遡上する姿も見られるようになりました。

★平成29年11月、12月の整備では、ひょうたん島の縁周辺の堆積土砂の掘削・撤去を実施したところ、島周辺にも清流が見られるようになりました。

様々な生き物の公園となったことで、地域活用のお手伝いになればと思っています。



【報告④】

小玉川渓谷探勝ウォーキングに参加して 半沢 紘（会員：平窪在住）

小玉ダム駐車場に9時集合、橋本代表の挨拶の後に各自が自己紹介をして顔を確認し合う。小川町の碓川寛さんの案内の下にスタート。当日は、この秋一番の冷え込みで、皆さんのいでたちも傍観スタイルである。橋本夫人の計らいで、暖かいペットボトルのお茶とお菓子の袋を配っていただき何か心温まる思いで歩みだした。

ダム周辺の山肌では檜などの広葉樹の紅葉は終わりを迎えていたが、点在するモミジなどは紅葉を残して存在をアピールしていた。

このコースは、私の30代ころに高校山岳部を引率して何度も歩いたところで40年ぶりに懐かしんだ。当時の道は、現在の湖面から5～10m上の垂直崖に刻まれた幅3mほどの山道で、落石に怯えながらの歩行であった。ダム奥の橋の所で昔の崖道の痕跡で昔を偲ぶことができた。この橋の北側に60mほどの垂直の崖が聳えている。崖に松や紅葉・黄葉の小木がへばり付き、その様は夏井川渓谷にも劣らない絶景だとの声が上がっていた。

やがてダムを離れて中根の集落に至る。昔は、10軒ほどの民家があり、崖道をたどって突然開けた平地の集落にほっとしたものである。今は3軒しかなく過疎そのものだ。しかし、道路は広規格の舗装道路で三和の高速インターとダムや草野心平記念館を結ぶものとなっている。案内の碓川さんの話によると、この道路は小玉川渓谷沿いに作る計画であったが、渓谷の美しい景観を破壊してしまうので小川地区の心ある皆さんの反対で銅屋場地区を迂回することになったとのこと。

いよいよ碓川さん自慢の渓谷に入る。渓谷の落差は小さいが大きな岩の連なったところを清流が絡まりながら下る様は、夏井川渓谷とは異なり女性的でもある。渓谷と言っても、広い谷なのだ。清流に沿う道も雑木林の中を緩やかに上っていく。檜や栂の木立の中に遅れて紅葉したモミジが色鮮やかに残っているのを見つけて歓声を上げる。渓谷は放射冷却が少ない分だけ紅葉が遅くなっている。4歳前後の子供たちが4人ほど参加していたが、嬉々として走り回りながら登っていく。体全体で自然の恵みを楽しんでいるようだ。

折り返し地点で10分ほど休憩を取る。このとき、森や林の生活の中での位置づけが、西洋と東洋で似ていることを話した。私たちの「休」むという漢字は林の木に「人間が寄りかかっている姿である。西洋の森という言葉は「forest」、「for」と「rest」の合成語であり、人の休む所が森なのである。

帰路は、上りとは異なる趣を味わいながらの緩やかな下りと「なった。今日の小玉川渓谷の「ウォーキングでは、里山と渓谷を同時に堪能できて楽しかった。残念なのは、最後の湖岸での楽しい昼食の輪に参加できずに帰らなければならなかったことである。

【報告⑤】

福島銀行ふるさと自然環境基金助成金贈呈式 田中博文

平成29年11月27日(月)福島市の福島銀行本店にてふるさと自然環境基金助成金贈呈式に行ってきました(当日橋本代表が都合付かず代わりに私が代行しました)。

助成金は、たまたま新聞記事で見つけて「夏井川かわくんだり」の資材購入で助成金を活用する旨で応募したところ当選となったもので、品目は船外機付ゴムボート・ゴムボート・胴長などで総額29万5千円の予算です。本事業ではゴール地点のボート引上げ・運搬が非常に労力が必要なので、小型船舶操縦免許を昨年取得したのに合わせて、船外機で上流へ運搬できればと思い応募したものです。

贈呈式は福島銀行本店会議室にてみずほ銀行・福島銀行の上層部の方々、選考委員の方々が多数同席される中、とても厳粛な雰囲気で行なわれました。その中で受賞各団体に5分程度のスピーチする時間があり、当会の活動と川下り内容を紹介しました。その後昼食会の懇談の中で、ゆるい事業で大変恐縮していることを伝えると、子供たちは大人が造り上げた自然にしか触れ合う機会がないため、当事業の楽しさと安全を学ぶ趣向に賛同して採点が良かったのでは、というお話がありました。贈呈式は毎年福島銀行創立記念日に行なわれており、平成4年の創立70周年を第1回として始まり、これまで25年間・66団体が受賞しているそうです。

[今回受賞した夏井川以外の団体]

- ・猪苗代町立翁島小学校
- ・喜多方自然史研究
- ・NPO法人自然と人間との共生プロジェクト

次回第5回夏井川かわくだりを9月に開催する予定ですが、それまでに購入する資材を精査し、助成金を有効に活用させて頂きたいと考えております。



福島銀行本店 12階大展望ラウンジ・カフェコーナー「ふるさと自然環境基金パネル展」

【寄稿文】夏井川の思い出(5)

親しみやすい夏井川に

阿部武市

度々古いお話しですが、小生、この夏井川流域NWへ入会するキッカケは、何かと申しますと、以下に述べるような事情があったからです。

今から40年前頃、県の担当者の方から、「これから夏井川を整備するので、夏井川の河原にある田畑を買収したい」という話がありました。私たち地権者は、「有効に使っていただけるならば」と止む無く同意しました。私も、約四反歩もあった畑や山林を安く買い上げられました。この土地は、お茶園があり、人参、ゴボウ、ネギ等の野菜が立派に育つ所でした。しかし、将来のことを考え、泣く泣く手放したのです。

運動場やサイクリング場やゲートボール場など、地区の人々の憩いの場とするような話でした。あれから40年余り、県は、河口付近を多少は整備しましたが、私たちの田畑だったところは、今は、草ぼうぼうに荒れ果てたままなのです。見る度に涙が流れます。

といったような訳で、私は、この夏井川流域NWの会に入会しました。

どうか、会員の皆さん、一度見に来て下さい。そして、少しでも立派な夏井川にしようではありませんか！！ ハッハッハー（初笑い）。

<世話人会の話題から>

○会員の皆さん、当会主催の事業に是非、ご参加下さい

当会では、子供達が直接川に接する機会を多く持ちたいと思って活動しています。その際、安全性を確保する意味からも、多くの人手が必要です。現在、支援者が足りず、他団体から応援して頂いておりますが、支援可能な方、世話人の方に声をかけて下さい。

～～～ 会員の皆様からの御寄稿をお待ちしております。～～～

会報 第46号

2018.1.1

発行：夏井川流域住民による川づくり連絡会（略称：夏井川流域NW）

事務局：〒970-8017 いわき市石森2丁目9-17 永井 精

Tel.0246-88-7388

ホームページ： <http://blog.natsuigawa-karyu.net/> （夏井川流域で検索）